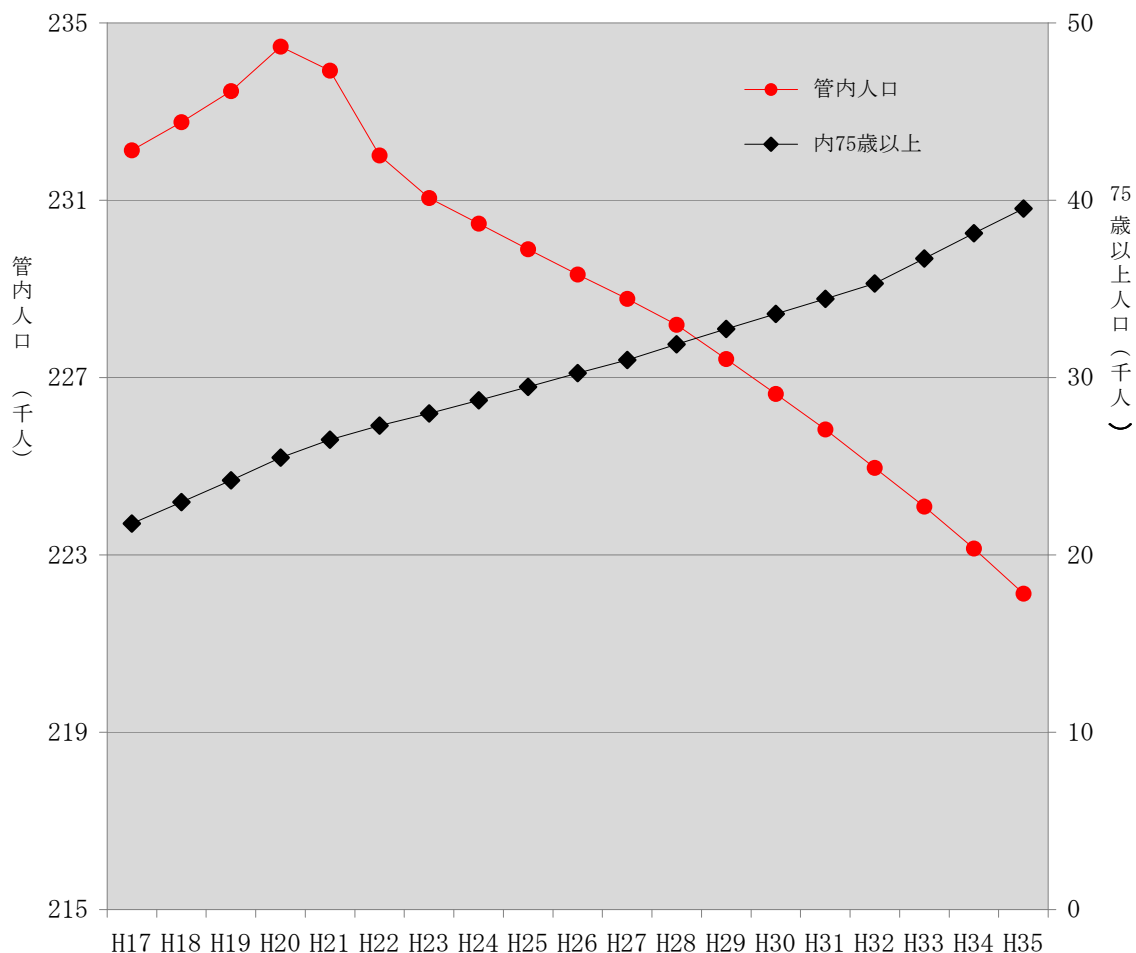


## 管内人口と75歳以上人口の推移



	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
管内人口	232,125	232,761	233,460	234,463	233,924	232,014	<b>231,052</b>	230,471	229,893	229,327
内75歳以上	21,764	22,977	24,200	25,480	26,505	27,293	<b>27,987</b>	28,725	29,483	30,245
	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	
管内人口	228,775	228,189	227,416	226,633	225,832	224,967	224,088	223,141	<b>222,123</b>	
内75歳以上	30,992	31,886	32,741	33,596	34,445	35,302	36,722	38,133	<b>39,529</b>	

※詳細は【資料1-1 管内年齢別推計人口】、【資料1-2 各市町村年齢別推計人口】にて掲載

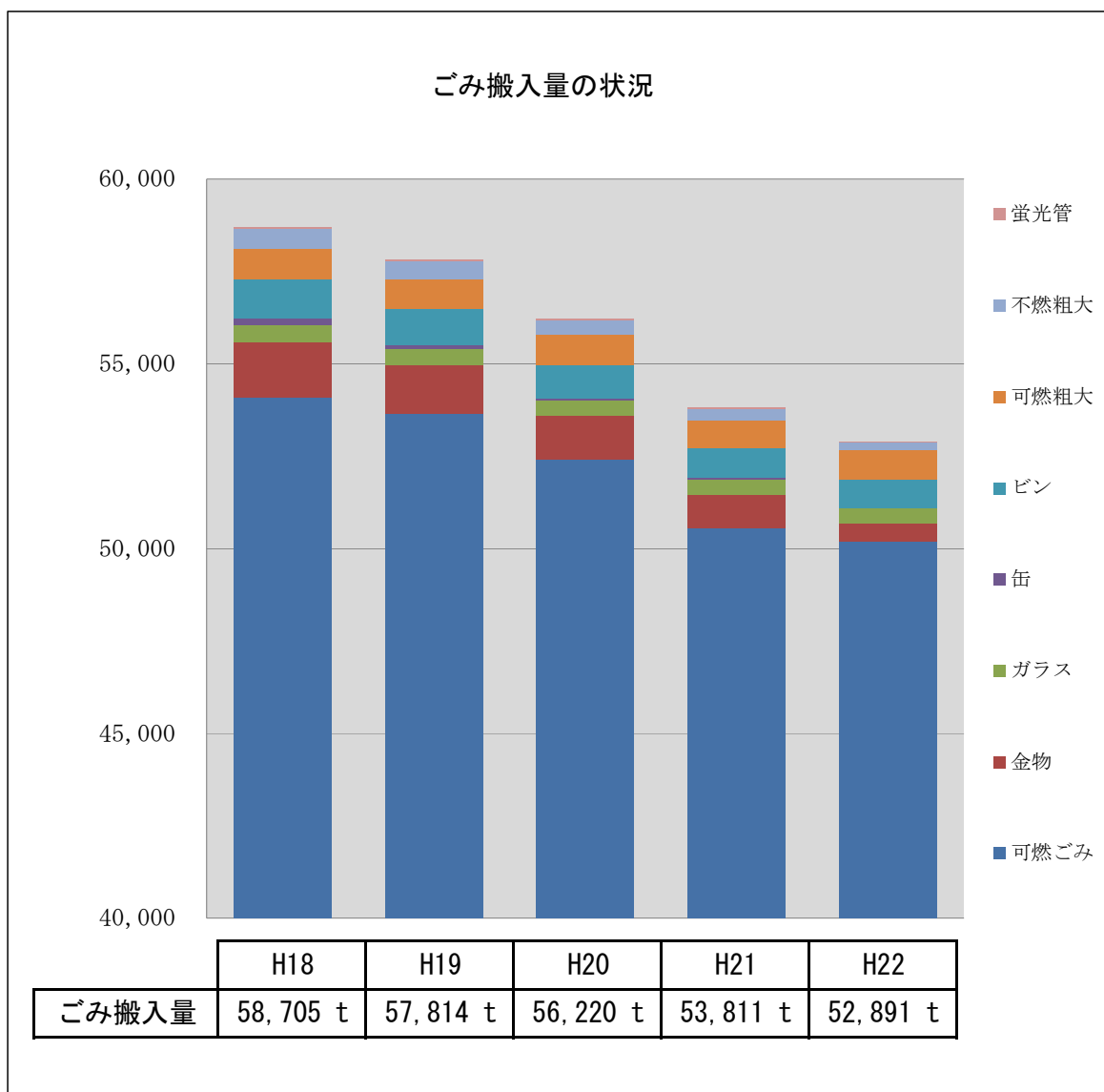
更に、長期のトレンドを推計すると、平成50年には管内人口が20万人を割る状況となり、特に75歳以上人口が最も多くなるのは、平成42年の45,178人であり、その後徐々に減ると推計します。

## Ⅱ-1. ごみ量

### ①現状

管内では、従前からの有料記名指定袋制など、様々な市町村施策と住民努力の結果、平成22年度1人1日あたりのごみ排出量は、645gと全国平均994g(平成21年度)と比較し、極めて少ない地域です。

特に近年は分別収集などにより住民の意識改革が進み、またリーマンショック以降の景気低迷など様々な外的な要因も重なったことから、ささゆりクリーンパークへのごみ搬入量は平成18年度をピークに**大幅な減少**となっています。

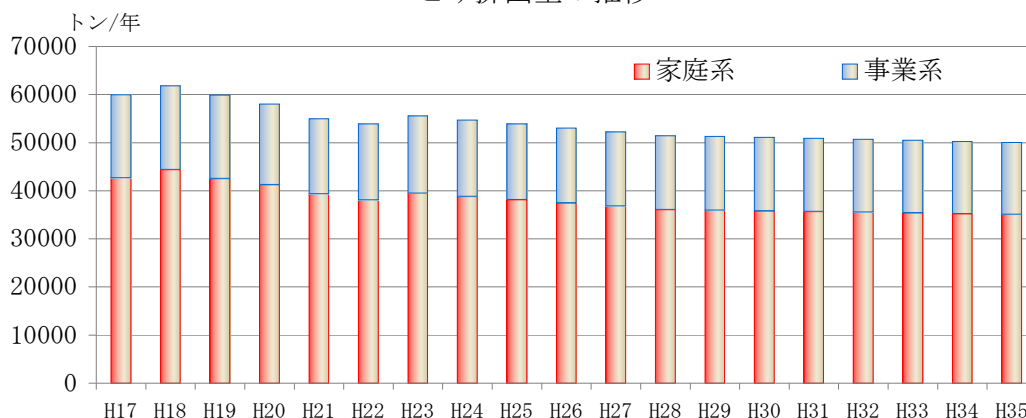


## ②推計

今後これまで以上の減量はかなり厳しい状況と思われますが、組合人口推計及び各市町村のごみ処理基本計画に基づき次のように推計します。

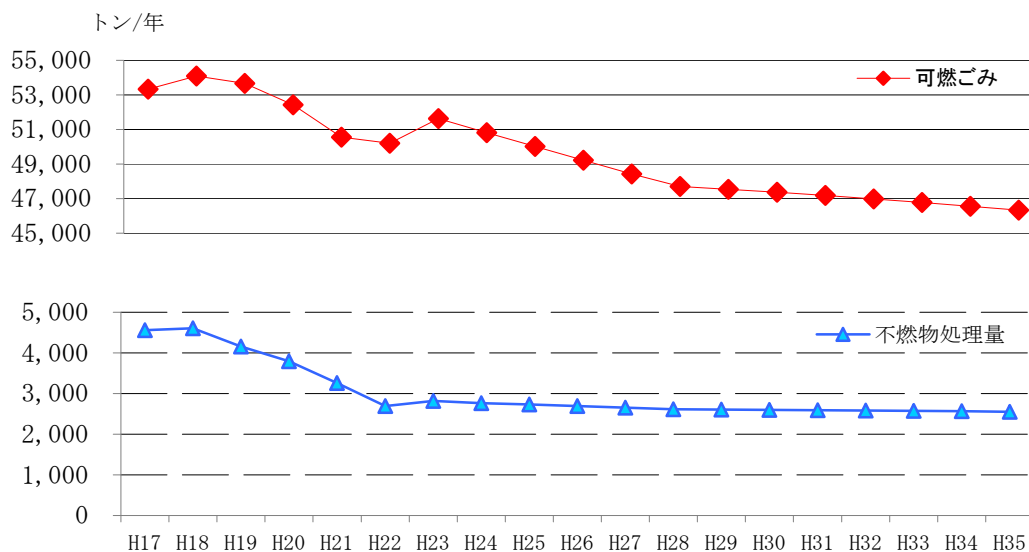
- ・推計の結果から、全体のごみ排出量は徐々に減少すると予想されます。

ごみ排出量の推移



- ・ささゆりクリーンパークでのごみ処理量のうち、その大部分を占める**可燃ごみ**は推計の結果から、今後徐々に減少すると予想されます。
- ・**不燃物**については、鉄やアルミなど有価取引される金属ごみが、資源回収され搬入されなくなったことから激減していますが、推計の結果から**今後は微減**になると予想されます。

ごみ処理量の推移



※詳細は【資料2 可茂地域のごみ処理の推移と今後の予測】にて掲載

## Ⅱ－２．し尿量

### ①現状

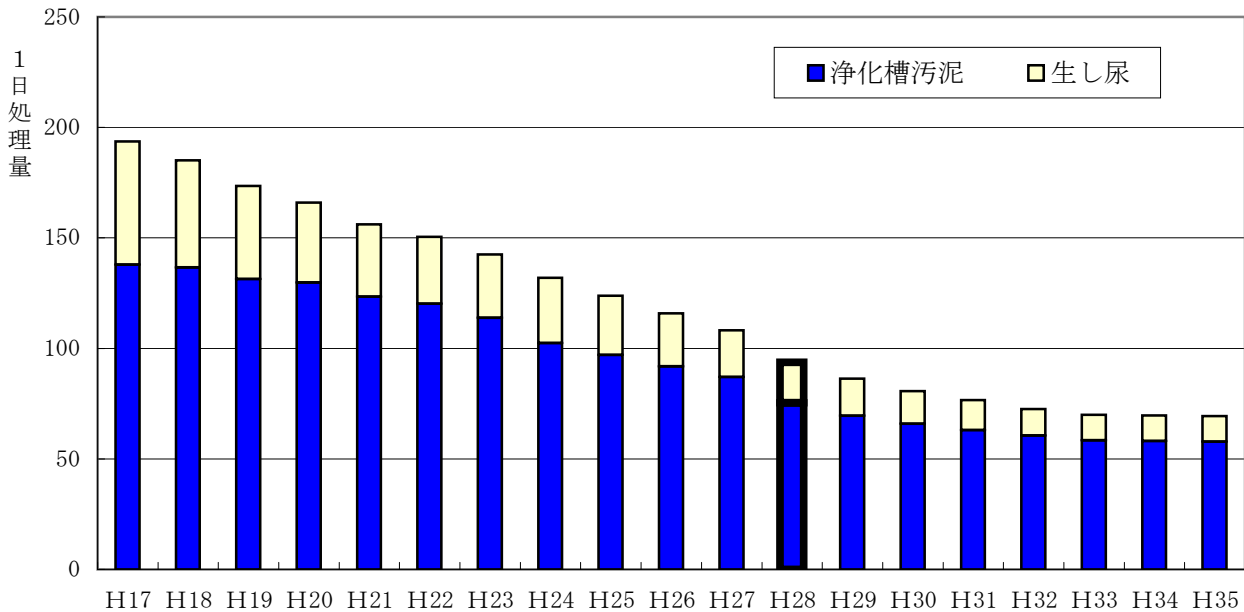
過去5年間の実績のとおり搬入量の減少は明確であり、下水道の普及に伴う各汚泥の搬入量の減少は今後も続くと見られます。平成21年度からは第3プラントの運転時間を縮小するなどの措置を図り、搬入量に合わせた運転を行っています。

### ②推計

処理形態別人口及び実績の過去6年平均（平成17年度～平成22年度）から原単位（ℓ/人・日）を算出し、平成35年度までの搬入量を推計しました。

推計の結果、平成28年度には1日の処理量が100KL以下となり、搬入量は年々減少していくと推測します。

年度別1日処理量予測



※詳細は【資料3管内市町村生活排水処理形態別人口及び搬入量予測】にて掲載

単位：KL/日

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
生し尿	55.88	48.61	42.08	36.13	32.81	30.38	28.57	29.60	26.88	24.06
浄化槽汚泥	137.82	136.52	131.39	129.83	123.37	120.17	113.89	102.37	97.00	91.84
合計	193.70	185.13	173.47	165.96	156.18	150.55	142.46	131.97	123.88	115.90
	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	
生し尿	21.16	18.48	16.80	14.78	13.58	12.08	11.63	11.58	11.52	
浄化槽汚泥	87.07	75.26	69.49	65.88	62.98	60.48	58.35	58.10	57.83	
合計	108.23	93.74	86.29	80.66	76.56	72.56	69.98	69.68	69.35	

### Ⅲ. 財政

#### 歳入

##### ①現状

- ・ 組合運営費の約 88%は、市町村分担金

組合運営費の約 88%は、市町村分担金によって賄われており、組合の財政運営は市町村の財政と直結していると言えます。

- ・ 使用料収入減収

使用料収入は、特にし尿と不燃ごみの減少により減収となっています。

- ・ 繰入金の充当運用

繰入金は、近年の歳出過大に対応するため、計画的に財政調整基金からの充当運用を行っています。

##### ②課題

- ・ 長期を見通した世代間バランス

組合財政計画により自治体財政にダイレクトに影響することから、分担金の全体的な減額と共に長期を見通した世代間バランスが課題です。

- ・ 財政調整機能の確保

減債基金が終了し、財政調整基金も計画的な緊急運用を実施しており、元来の財政調整機能の確保が課題です。

- ・ 新たな財源確保

循環型社会形成推進交付金の適用、計画的な起債、整備手法として P F I の採用など、新たな財源確保が必要です。

- ・ 繰越金

繰越金は、プラント運用に必要な燃料・電気などの購入価格に大きく影響されます。

#### 過去3年の状況

単位：百万円

歳入	H20	H21	H22
分担金	3,571	3,582	3,483
使用料	183	181	173
財産収入	3	5	3
繰入金	161	224	200
繰越金	76	28	39
諸収入	68	65	49
合計	4,062	4,085	3,947
分担金割合	87.9%	87.7%	88.2%

## 歳出

### ①現状

- 衛生費が23億円程度（58%）を占めており、組合業務のほぼ全てです。

可燃処理費は約15億円であり、民間への業務委託と共に通常の施設整備費です。

し尿処理費は、搬入の減少により特に燃料費などに影響が出ています。

不燃処理費は、搬入は減少していますが、施設運転に影響を与えるほどではありません。

斎場管理費では、建設後28年経過する老朽化に対応するため、この5年間で火葬炉の大型化や排気筒などの大規模工事と経常的整備を進めてきました。

- 経常的経費の削減のため、更なる民間委託、契約の複数年化、発電アップによる節電などにより積極的な縮減を進めてきました。
- 公債費は、現在約15億円ですが、ささゆり及び緑ヶ丘の建設にかかる償還を計画的に支払ってきており、今後かなりな減額が見込まれます。

### ②課題

- ささゆり可燃処理施設が12年を経過し、**毎年の整備以外に抜本的整備が必要**であり莫大な投資が不可欠です。
- 第1期最終処分場終了が間近**に迫り、第2期以降の工事に莫大な投資が不可欠です。
- 来たるべき**火葬場新設に、莫大な投資**が不可欠です。
- より一層の経費削減が課題であり、**更なる民間委託化や業務の進め方の検討**が必要です。
- 適正な職員数の計画の中で、人件費の縮減**が課題です。
- 長期にわたる財政運営につき、必要なコストを投入しながらも全体的縮減を図る**財政マネジメント**が課題です。財政運営の計画化。

#### 過去3年の状況

単位：百万円

歳出	H20	H21	H22
議会総務費	142	159	169
衛生費	2,436	2,442	2,294
公債費	1,482	1,482	1,482
予備費	2	2	2
合計	4,062	4,085	3,947
公債費割合	36.5%	36.3%	37.5%
※公債費(償還金)は22年度までが最高額			

単位：百万円

衛生費	H20	H21	H22
し尿処理	483	492	451
可燃物処理	1,571	1,585	1,487
不燃物処理	212	211	216
公園管理	17	14	14
研修館管理	47	50	47
斎場管理	106	90	79
合計	2,436	2,442	2,294